

“幻”のSL7重連



6両のSL補機を切り離し、3号蒸気機関車のみを先頭にヴィアディック橋を渡る50周年記念列車
このアーチ橋上を勇壮に進むSL7重連が撮れると思っていたのに幻に終わった。しかしながら、後に続く客車も素晴らしい
SBB(スイス国鉄)、RhB(レーティッシュ鉄道)、MOB(モントルー・オーベルラン・ベルノワ鉄道)と続く



7重連の先頭を務めたBC鉄道のLEB5号機関車
1890年生まれのCタンク機



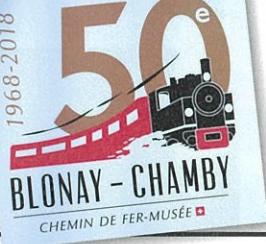
2番手はBC鉄道のJS909/BAM6号機関車
1901年生まれのCタンク機



3番目はSBBスイス国鉄からのゲスト機関車
SBB208号 1913年製造

プロネイ・シャンピー博物館鉄道50周年記念
『メガ・スティーム・フェスティバル』にて

文・写真：櫻井 寛
取材協力：スイス政府観光局
スイストラベルシステム



4番目は遠路ポルトガルから CP E164号
1905年製造のマレー式機関車



5番目はBC鉄道のSEG 105号機関車
1918年生まれのマレー式機関車



6番目はDFB(フルカ蒸気鉄道)からのゲスト機関車で、
アプト式のFO4号機 1913年製造

プロネイ・シャンピー博物館鉄道(以下、BC鉄道)は、眼下にレマン湖を望むスイス・リビエラ地方の保存鉄道だ。1968年の開業から50周年を記念して、5月10日から21日まで『メガ・スティーム・フェスティバル』が開催された。

SLだけで5両を動態保存するBC鉄道のこと、週末には多数のSL列車が運行されたが、メインイベントが12日と19日のSL7重連である。これは、ゲストにSL5両を招いて実現したもの。3重連までは、かつての伯備線や東北本線でも行われていたが、7重連とはすごい！

ひとめでもその雄姿を拝みたく、5月18日にスイス入りしたのであった。翌19日の10時過ぎ、モントルー・ヴヴェイ・リビエラ鉄道(MVR)に乗ってBC鉄道の起点プロネイ駅に降り立つ。

7重連の発車は11時20分だが、その前に、電車の撮影列車が走るという。乗り鉄はSL7重連、撮り鉄は電車というわけだ。迷った末、電車に飛び乗った。

BC鉄道は初めてなのでロケハンができない。そこで、一眼レフで重装備した同好の士に撮影ポイントを尋ねた。ラッキーなことに地元・ヴヴェイのファンだそうだ。レマン湖周辺はフランス語圏だが、英語でこう教えてくれた。「いい撮影ポイントは何か所かあるけれど、一番有名なのはヴィアディック橋だよ。」

撮影用の電車は途中数カ所の撮影ポイントで停車し、カメラマンを降ろしていき、やがてヴィアディック橋で停車した。

その橋は石造りの5連アーチ橋で、しかもカーブしている。光線状態もいい。迷わず私はそこで下車する。ところが、その場所を教えてくれた“一眼レフ氏”は、「じゃあ、頑張って！ 私は別の場所で撮るから」と、下車しなかった。

そのことがちょっぴり気になったが、地元の人だけに、この橋では過去に何度も撮っているのだろうし、橋の両サイドは既に50名ほどの先客が陣取っている。それゆえ別の場所に行ったの

だろうと勝手に思うことにした。
さあ、間もなく、SL7重連がやってくる。
私はカメラを構えて、その瞬間を待つ。
やがて林に汽笛がこだまし、音色の異なる複数のドラフト音が近づいてきた。
「いよいよ来たぞ！」

「7重連だ！」
樹木の間からスティームがあがる。カメラを持つ手が震える。落ち着いて、もう一度ピントを合わせ直す。
……けれども、来ない。



ヴィアディック橋を通過後、再び7重連となり勇壮に発車するシーンを後部の客車より撮影する
ああ、これを先頭から撮りたかった！

——どうしたんだろう？

1分、2分と経過する。どうやら鉄橋の手前で停まっているようだ。

——トラブルだろうか？

首をひねっていると、SLがたった1両でやってきた。7重連の露払いと思いや、1両が橋を渡り終えると次のSLがやはり1両で通過する。単機回送というわけだ。

そして6両のSLが順番に通り過ぎた後、3号機関車が7両の客車を牽引してヴィアディック橋を通過。渡り終えたところで、再びSL7両を連結し直しているではないか！



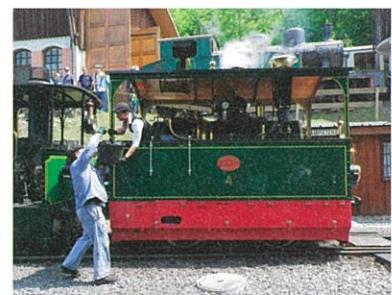
ヴィアディック橋のたもとでカメラを構えたスイスのSLファン
紳士的で三脚はほとんど見かけない



シャンピーからシュロン・ミュゼはスイッチバックする格好でバック運転となる 安全確認する車掌の赤いカバンがシャレている



午前中は好天だったが、午後2時過ぎに暗雲が垂れ込め、なんと雹が降った この方が迫力あり！



BC鉄道のマスコット的存在のスチームトラムFP4
SLだが用途が異なるためか7重連には参加せず



シャンピー駅より数百mのシュロン・ミュゼ
SLのみならず数多くの車両が動態保存されている

再び7重連となった列車は、意気
揚々と終点のシャンピーを目指して
50%の急勾配を登って行った……。

後で知ったことだが、ヴィアディック
橋には重量制限があり、ヘビー級のS
Lは1両ずつ通過するのだそうだ。

——この橋では、7重連は撮れなかつたのである。

午後は幸運にも(?)嵐のような天候
となり、これまた得難いシーンを捉える
ことができた。わずか3kmほどの運転
区間ではあるが、スイスの素晴らしい
風景の中をSLが走る姿は筆舌に尽く
しがたい。

さて、流石に7重連は叶わないが、
例年5~10月の土・日曜にSL運転をして
いるので一度体験してみてはいかがだ
ろうか。感動すること請け合いである。

7重連は撮り損なったけれど、実に
楽しかった！



208号機関車の前でポーズを決めるのは、
プロネイ駅長のニコラス・レガミー氏
グリーンの制服が実に格好いい